

## オーディオ実験室収載

### ディジタルリバーメンテ試聴報告（4） —CCV-5 とディジタルリバーメンテの試聴—

#### 1. はじめに

前報までにディジタルリバーメンテの効果について報告しましたが、今回既にリバーメンテを使用されているオーディオ仲間の A 氏邸に GPS-777、CCV-5 およびディジタルリバーメンテを持参し、それらの効果を確認しようということになりました。

#### 2. 試聴計画

A 氏邸のシステムはスピーカーが QUAD のコンデンサースピーカー ESL-6389 と KEF LS-3/5a、アンプが上杉アンプでプリ：UBR0S12 とメイン：UBR0S15 x 2、CD プレイヤーが DENON の S10HIL、ブルーレイレコーダーが拙宅と同じパナソニックの BZT-9000 を使用されており、さらに拙宅から加勢している PC オーディオ用の USB-101、DAC の Birdland Odeon Lite などがあります。

今回拙宅の GPS-777、CCV-5、DAC-1、ディジタルリバーメンテなどを持参し、これらを用いて CCV-5 とディジタルリバーメンテの効果を確認することにしました。なお、音源は A 氏保有と拙宅から持参した CD 再生とブルーレイレコーダーによる BS 録画と BD や DVD ディスクの再生で主としてクラシックのさまざまなジャンルと女性ボーカルなどを選んでいます。



上杉アンプ：  
UBR0S15



### 3. 試聴結果

まずは、現状のままで DENON の CD プレイヤーをトランスポートとして使用する条件でスタートしましたが、上杉アンプで駆動する QUAD のスピーカー特有の柔らかい温かみのある細やかな音が好ましい感じで鳴っています。しかしながら聴きこんでいくと、やや平面的で単調なところも気になってきますが、恐らくは拙宅から持ち込んだ 15 年くらい前の Birdland の DAC の問題であろうと思われます。次に DENON のプレイヤーと DAC の間に CCV-5 を介在させ、GPS-777 から 44.1KHz のクロック信号を送りこみますと様変わりし、弦の艶が増し、平面的であった音場が見通しよく立体感をもって鳴るようになりました。この場合、デジタルケーブルはインフラノイズの従来品を使用していますが、ここでデジタルリバーメンテに変えてみると、いっそう音の彫りが深く押し出し感が強くなり、例えば、ボーカルものでは歌手がバックから浮き出していくようになります。さらに Birdland の DAC からインフラノイズの DAC-1 に替えてみると音のクオリティが向上しました。

ここで、CD の再生から、PANASONIC の BZT-9000 による BS 録画や BD ディスク、DVD の再生を行ってみました。この場合、GPS-777 からのクロック供給は BZT-9000 からのデジタルアウトに合わせて 48KHz に設定しています。A 氏によれば、CD の再生と同様、クロック供給以前に比べて同じ方向での音質向上が見られるところで、大画面の TV の画像の迫力と相まって臨場感に酔える状況です。この後、USB-101 による PC オーディオに進み、GPS-777 から USB-101 には 48KHz、CCV-5 には 96KHz でクロック供給を行ってみました。ここでも A 氏に

よれば、CD やブルーレイレコーダーの再生と同様、クロック供給以前に比べて大幅に音質向上があるとのことで、ハードディスク上の WAV の再生でも、CD のストリーミング再生でも CD 専用機は不要ではないかという声も出るくらいになりました。

#### 4. まとめ

A 氏邸システムでは、GPS-777 から CCV-5 および USB-101 へのクロック供給、ならびにディジタルケーブルをディジタルリベラメンテに替えることで大幅な音質向上が認められ、上杉アンプや QUAD のスピーカーのしっかりしたベースの上に音楽を心地よく楽しめるという環境が整いました。

即ち、以下のようななかたちで高忠実度 DA 変換がなされていることが、上記の結果が得られていることに関係しているものと言えます。

- (1) 最上のクロック精度の発生→GPS-777
- (2) 可能な限り精度を低下させないクロックの伝送
- (3) 可能な限り高精度のクロックでの音楽信号のリクロック→CCV-5
- (4) 可能な限り高精度のクロックを維持した状態での音楽信号の伝送→  
ディジタルリベラメンテ
- (5) 高精度のクロックを受けての高忠実度 D/A 変換

以上